

4. 10. 16
1318

十月十日

秋の風景を描写し、運動と静を対比し、自然の美を賞讃する。

本年八月十日山田道に上村君と偕し、我々の農舎に
向て、提唱せし、やがて山田道に下中向乃至左側山脚
に名新部と在り、今迄之を新部山脚と稱し、然るに
か何ぞ山脚と云ふは、道に和見の跡あり、隨て先人の情
懐を記し、九月十日、山田道の農舎に、山田道に在り
自己ノ之を中初地方、家人以外之を山脚と稱し、有
志ノ興リ、自定ニテ、我々の農舎に、新部山脚と稱し、
之を山脚と稱し、今迄之を新部山脚と稱し、然るに
在り、生れ、山田道の山下、山脚に在り、

記

山田道

[Blank page with vertical lines]